

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (30年1月号)

平成30年1月1日

新年お目出度ございます。お蔭さまで無事年を越すことができました。本年も相変わらずのご応援を宜しくお願い申し上げます。

さて、年が明けましての活動のお知らせです。ご見学、ご加勢歓迎です。

1月12日(金) 9:00~12:00

高知駅北口ロータリー緑地の北側(ケヤキが植えられている場所)に新たに植樹するための準備として、除草・掘り起こし・施肥を行います。大作業なので前川種苗さんのご協力を仰ぎます。久方ぶりの植樹に高知市のご諒承を頂きました。

1月13日(土) 9:00~植樹の下準備、10:00~植樹会(皆様ぜひご参加ください)

上記の場所にヒメシャラ(姫沙羅)の中木を植えます。

1月14日(日) 14:30~15:30

日当たりのよい中央公園前の帯屋町筋でいつものチラシ配りと葛岡さんによるギターライブを行います。(この程チラシのデザインを若干改定いたしました。)

なお、2月の共同活動は18日(日)、3月も18日(日)の予定です。

先月のトピックス

○12月17日(日)、

午前：南口の「みんなの庭」はまだ雑草が伸びてないため(右手写真=どなたが植えたのか菜の花の苗も)手入れをSさん一人にお任せし、3人がかりで北口駐輪場周り植栽の除草に着手しました。カヤ(萱)の類の背の高い草がポウポウで、可哀そうにせつかくのサツキを蔽い隠さんばかりです(写真=次ページ)。

午後：いつもどおり帯屋町でギターライブ。音楽に惹かれた通行人に「木を植えよう」のチラシを配りました。

(次ページに続く)



駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695

○12月16、17日午前

北口駐輪場の難儀なカヤ退治を継続。寒波襲来で低温でしたが穏やかな日射しに恵まれ汗をかくほど。収穫は50リットル入りビニール袋10個分。植栽が見違えるほどキレイになりました。機会がございましたらご視察ください（下の写真右端）。



除草前:カヤが茂ってサツキが見えない シャベルで除草

除草後はサツキが見えるように

「緑のまちづくり」を考える

（18）でっかい初夢を見ましょう — 20年後の高知市

それは「ガーデンシティ高知」。文字通り庭園のような田園都市です。まち全体を庭園と見立てるといっても立地条件がありますが、高知市は幸い数々の名勝に共通する「背山臨水」の土地です。後背に緑豊かな四国山地、前面は鏡川・浦戸湾そして世界につながる太平洋を臨む温暖の地。東洋一のガーデンシティを目指す資格は完璧といつてよいでしょう。

これからの街づくりのキーワードは、実用性・機能性だけにこだわらない「グリーン・インフラ」（前号で解説）。お金は「開発・建設」事業に代わって「復元・再生」事業に使われるようになるでしょう。

身近な例を挙げてみます。

まず、桂浜・浦戸湾の今後については、桂浜水族館内「桂浜を守り育てる会」が発行する「桂浜だより」第四号の巻頭記事「近代浦戸観光の忘れ物“自然・史跡・未来”」（中城正堯氏筆）に貴重な提言があります。要旨をご紹介しますと「高度成長期に浦戸湾で行われた狭島爆破や埋め立てなど自然破壊の反省にたち、桂浜・浦戸湾のかけがえのない自然と史跡を野外博物館として整備、単に行楽地のみならず、子どもたちの郷土学習にも、大人の生涯学習にも活用したい。外洋港と連携した国際観光地への脱皮も必要だ・・・」（詳しくは発行者＝電話088-841-2437にお問い合わせください）。

次は高知城周辺です。年数はかかりますが、藩政時代や龍馬の町の面影を浮かべようもない戦後の中高層ビルを取り壊し、「お城（城壁も）が見える城下町」にすること。県内になんぼでもある不要な古民家を適切な各所（上町、丸ノ内など）に移築して昔の街並みを復元してははいかがでしょうか。（右の写真は古民家の移築活用例）

堀割・堀川の再生も欠かせません。埋め立ててしまったから仕方がないと諦めないこと。復元・活性化の事例は各地にあります。福岡県の「水郷柳川（市）」は江戸時代の柳川城の堀割をそのまま辿っていく観光川下りで有名ですが、映画のロケがきっかけで埋もれたお宝に気付いた市民が整備に取り組んだといえますからそう古い事業ではないようです。ちなみに、5か所の乗り場から自由に乗り、古謡などを歌う船頭100人がご案内します（右の写真）。



東北自動車道(旧日光街道)羽生 PA

